

定期訪韓団報告⑤

うさぎ小屋住人が

目をむく「邸宅」

十一月八日、全北での最後の夜は組合役員のお宅に分宿させて頂いた。

ウサギ小屋住人の日本の労働者は皆目をむく贅沢な広さのマンション風邸宅。翌朝、ソウルに向かうKTX（日本でいえば新幹線）を待つ間もひとしきりこの話題。住宅の広さの基準が日本とは段違いなのだ。

別れを惜しんで深夜までの交流もあった。今回驚いたのは多くの韓国の労働者がスマホを同時通

訳のように活用して熱心にコミュニケーションをはかっていたこと。

全国労働者大会へ

九日、訪韓の最大の目的である「チョン・テイル精神継承！全国労働者大会」に参加するため一路、ソウルへ。その夜は前夜祭、翌日午前と午後

ソウルでのお迎え

ソウル・龍山駅には建設労組書記長のオ・ヒテク氏と委員長が車で出迎え。大きな荷物を抱えてホテルへ地下鉄で移動させるのは忍びないと。建設労組といえば民主労総

の中で、金属労組について二番目に大きく勢いのある産別組合。年に一回の労働者大会を目前にした日に、訪韓団九人の為に動いて下さるご厚意に、中村猛氏が築いてきた人間関係の濃さを見る思い。

シカのお尻

その上、オ・ヒテク氏には昼食までご馳走になった。案内されたのはソウル中心街の一角、細い路地を入ったところに残る伝統家屋の有名な韓定食の老舗。次々と珍しい料理が運ばれてくる。中でも忘れられないのが「ノルオンドキ」というきのこ。ノル（小さい鹿のよ



⇒ 左がオ・ヒテク氏。その隣が中村猛氏。座敷には美しい屏風

組織を強化拡大し、階級的労働運動の発展をめざそう！

うな動物)のお尻の意。まーるくて真っ白でフワフワ感。標高1km以上の山の木の上に生え、この一ヶ月間位しか採れない季節限定の食材、三大きのこの一つだそう。そんな貴重な物を頂いているなんて！ 恐縮。

オ・ヒテクという人

オ・ヒテク氏は武勇伝が多く、「組織化の神様」の異名もとっている人物らしい。一九六四年生まれ、ソウル大学在学中に全斗煥軍事独裁政権により国家転覆罪で逮捕、あらゆる拷問をうける。恋人に婚約解消を申し出たが出獄まで待つてくれた。

つい先日まで重篤な肝臓病で入院していたというのに、ビールに焼酎を入れてグイグイと飲むわ、食うわ。そうしながら家族の話、日本列島を自転車で沖縄から稚内まで縦走した話、労働者大会のことなど話題はつきない。

三世代 弾圧されつづけ

おじいさんは西大門刑務所で処刑された。日本は植民地解放を闘う人々をここに捕え酷い拷問にかけ処刑した。現在は独立記念館になっている。犠牲になったおじいさんの写真も飾られている。

おばあさんは結婚しないと日本軍「慰安婦」に

引つ張られるので満一四歳で結婚。五人の子を産み二五歳で夫を奪われた。その長男がオ・ヒテク氏の父。母を助けて兄弟の面倒を見、最後に結婚。三六歳で彼が生まれた。教師として朴正熙(今の大統領の父)軍事独裁政権と闘い弾圧を受けた。

祖母の人生に思いはせ

夫を処刑され息子を朝鮮戦争で失い、親子三代続く弾圧。八六歳になる祖母の、ひとりの女性としての人生はいかばかりであったか、深い思いを致しながら淡々と語った。

鉄パイプで闘う意味

一転して労働者大会の話。韓国も日本と同じく右傾化。韓国はそうなる労働運動も市民運動も活性化。明日は鉄パイプで武装し放水車を浴びてぶつか。建設大資本は政府の天下りが多い。こんな国に投資して大丈夫か？と外資がためらい、政府・資本への圧力となる。交渉では突破できない。二〇年間で七百人以上が拘束されたが二千万労働者の地位が向上した。犠牲者なくして闘いの発展はない。かつて日本の全共闘や赤軍から戦術を学んだ。父が翻訳してくれた。(つづく)

(南労会支部 ○)